



井上 宣邦
(無線工学)

ある作家が書いた、道路にある全ての小石にはそれぞれ名前があるといった内容の文を読んだことがあります。

この作家は個々の小石は役割や個性(アイデンティ



情報は用語

用語のアイデンティティ、正しく理解を

ティ)を持つっていると述べているのだと思います。

これは工学分野で使用されている用語にも通じることであると思います。

例えば、用語の「放送」と「通信」に対して混用あるいは誤用されているケースが

術を用いて不特定多数に向けて音声・映像・文字などの情報を一方的かつ同時に送信することです。

「電気通信」とは「有線、無線その他の電磁的方式により、符号、音響または映像を送り、伝え、または受ける

さらにインターネット網のプロトコル化やデジタル化、また世界がスペース時代に入り放送衛星(Broadcasting Satellite)・通信衛星(Communications Satellite)

ons satellite)が普及して、「放送」と「通信」の制度上の境界が不明確になってきました。「放送」と「通信」の融合の幕開けが始まりました。

融合は、サービス向上のため放送業界と通信業界の相互参入が進展する現象で

あつて、混用が認められたのではありません。

このように社会背景が時代の流れや環境の変化により用語に対して複雑感が増しています。

しかし、「誰が、いつ、どこで読んでも、聞いても」全く同じ理解をしないと相手に正しい情報は伝わりません。

多く見受けられます。用語に対する混用・誤用は受け取り側で拡大解釈・曲解・誤解などにつながり正しい情報の伝達が成り立たず意思の疎通ができなくなります。

「放送」とは、「電気通信技

ことをいうと規定されています。

言い換えると「放送」は誰にでも開かれた一方通行の世界であるのに対して「通信」は関係者だけに限られた世界であるということです。

「通信」の制度上の境界が不明確になってきました。「放送」と「通信」の融合の幕開けが始まりました。

融合は、サービス向上のため放送業界と通信業界の相互参入が進展する現象で

一つの用語は固有のアイデンティティを持っています。1つの意味・内容を表現しています。一語一義です。

広島大学で市職員として退職したことをお知らせいたします。【問い合わせ】kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)